

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970800866
法人名	NPO法人 ふるさと
事業所名	グループホームふるさと敷島
所在地	〒 400-0124 山梨県甲斐市中下条1603-1 電話番号 055-277-8408

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年7月18日	評価確定日	平成20年8月28日

## 【情報提供票より】平成20年7月5日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月19日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12人	常勤	4人 非常勤 8人 常勤換算 6人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造一部木造 造り
	2 階建ての 0 ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	68,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 100,000 ) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 0 円			

## (4) 利用者の概要 H20・7・5 現在

利用者人数	9 人	男性	4 人	女性	5 人
要介護1	0 人	要介護2	2 人		
要介護3	3 人	要介護4	3 人		
要介護5	1 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	花の丘たちかわクリニック
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年7月25日

県道6号線より70メートル程南に入った住宅地に位置し、割烹料亭を改装した1ユニット9名の施設である。広々としたタタキとなっている玄関は、日中開け放たれており開放感がある。上がり框は段差があるが、外出時にはさまざまな条件があることを考慮してのホームの方針である。職員は開設時より同じメンバーであるため、コミュニケーションは良く取れている。利用開始時車椅子だった利用者が歩行可能となる、糖尿病の利用者が改善している、おむつを使用している利用者がいない等介護の質は高い。10月には隣接地に精神科医による「ふるさと診療所」が開設される運びとなっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型の理念を職員全員で考えたことにより理念の共有は出来ている。食事も利用者、職員、共に同じテーブルで声かけをしながら楽しんでいる。ハード面でのトイレについては利用者が馴染んで利用しているものの、台所、浴室については改善するに至っていない、しかし運営者も考慮中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① まず管理者が自己評価を行い、それを基に職員会議の折に職員全員で各項目ごとに検討、話し合いを持った。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2か月に1度開催されている運営推進会議のメンバーは、市福祉課長、地区民生委員・家族代表・利用者代表・運営者・職員で構成されており、事業報告・計画、外部評価の結果、それに対する取り組みが主な討議内容である。その他市への要望、地域との連携の取り方など活発に意見が出され、それらを活かした取り組みがなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営者の携帯番号も家族に伝えてあり、面会の折にも意見や苦情など気軽に話してもらい、運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区自治会に加入しており、防災訓練・河川清掃・祭りなど地域の行事に積極的に参加している。施設の前の道路が通学路になっており、子供達が声を掛けてくれたり、土・日曜日には遊びにきてくれる。近所の人とは顔馴染になっており、お互いに気軽に挨拶をかわしたり、野菜などをもらうこともある。夜間の緊急時には応援してもらえる関係が作られている。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホームふるさと敷島

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の調査の折り返し指摘された改善項目である。その後職員全員で検討して、地域密着型のサービスが提供出来るように、「ち・い・き」を活かした、わかりやすい理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員がともに考えた理念である。全員で共有し、実践に向けた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入しており、折々の行事に参加している。また通学路となっているため子供達が声を掛けてくれたり、土曜日・日曜日には遊びにきてくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価については職員会議、また運営推進会議で討議することにより、日々の取り組みについて再確認が出来ることの意義を理解している。またそれらを活かした改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・利用者代表・地元民生委員・市福祉課長・職員とがメンバーとなっており、2か月に一度開催している。討議内容は、現状報告、行事への協力依頼、自己評価、外部評価を踏まえての取り組みなどであり、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市福祉課長が運営推進会議のメンバーであり、推進会議にはかならず出席して下さるため、折にふれ相談、指導をもらえる関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話で家族とは連絡を密にしている。年一回事業所の暮らし振りを記録した写真を家族に送っている。小遣いは利用者の管理となっており、訪問時確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者の携帯番号を家族に伝えてあり、いつでも意見や苦情を聞く体制となっている。また面会時気軽に話せる関係が作られており、意見があった場合はそれらを運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初より職員の異動はない。利用者とは馴染みの関係が作られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全国認知症グループホーム協会等の研修会、感染症、救急法などの研修会には、積極的に参加しており、職員会議の際その内容は全員で共有し職員の育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム事業者の連絡会へ参加したり、また全国及び県のグループホーム協会へ加盟して、同業者との交流は積極的に行っている。また他施設の研修生を積極的に受け入れる体制が作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、事前の家庭訪問、利用者と家族とで施設の見学を行うことにより、場の雰囲気に馴染んでもらうための配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の得意なこと、出来ることを把握しており、日常の中で縫い物をしてもらう、食事の配膳を手伝ってもらうなどするなかで、折に触れ感謝の言葉を伝え、ともに支え合う関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の出来る利用者については希望に添った対応をしている。困難な場合には、自身の親の場合、また自分ならどうして欲しいか照らしながらの支援が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	運営者が看護師の資格を有する為、医療の面を踏まえた介護計画が作成されている。また月1度のモニタリングシート作成には、そのつど別の職員が担当することにより、利用者の状況を職員全員で共有し、それを反映した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1度の見直しを行っている。見直し以前に変化が生じた場合は管理者、ケアマネジャー、家族と密に話し合い現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外泊、面会にこられる家族の送迎など必要に応じて柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である、花の丘たちかわクリニックの担当医師による週1回の往診を受けている。本人や家族の希望により従来のかかりつけ医への対応も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については利用開始時家族と話し合い、重度化した場合は、病院への受け入れを確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特にトイレ誘導、入室の際のノック、声かけには配慮している。個人記録の取り扱いについては事務所に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物に行きたい、散歩をしたい、床屋に行く等一人ひとりの希望にそった日々の過ごし方を柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も出来る人は準備や片付けを手伝っている。食事の前には利用者の「いただきます」の発声のもと、利用者と職員とが一つのテーブルで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の前には検温を行って、希望の時間・毎日を原則として支援している。入浴を好まない場合はシャワー浴としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一日に一度は必ずドライブをしたり、裁縫、習字をするなど一人ひとりの楽しみごとの支援が行われている。居間には利用者専用の冷蔵庫が備えられており、それぞれ自由に自分の飲み物を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	小遣いは利用者それぞれの管理となっているため、好きなおやつや、日用品などの買い物に行くことが楽しみとなっている。外食の機会も設けており戸外にでるための支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、日中の玄関ともに鍵はかけられておらず鍵をかけることの弊害を理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っている。地域の防災訓練に参加したり、飲料水の備蓄、緊急持ち出し品の用意がある。地域の協力体制については、近隣に日頃から夜間の協力についてお願いをしているにとどまっている。	○	利用者の外出時を利用して、火災などを想定した全員での避難訓練を行うことにより、避難経路、時間、手順などの確認を日常的に行うこと、また近隣の住民にあわせて地域の消防団にも協力してもらえよう働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力病院の管理栄養士の指導のもとに、メニュー、量、柔らかさ、食事にかかる時間についても、一人ひとりの能力に応じた支援が行われている。また入浴の後必ずスポーツ飲料を飲むなど水分量も必要に応じて適切な支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間は広く明るい。居間の隣接地は畑となっており、野菜の緑が目涼しげである。トイレ、台所、浴室は既存のままの利用である。	○	ハード面の改造は難しい問題もあるが、室温の管理も含めて、広すぎる浴室に利用者が手を掛けても体が支えられるような形での間仕切が備えられることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の品々で設えられていたり、ベッドとテレビだけ置き、他は物入れに片付けてある。また馴染の布団を利用している等、利用者と家族の希望を取り入れ、本人が心地よく過ごせるよう工夫されている。		